

「定時制高校に通う生徒の自立・自律へ向けての取り組み」

兵庫県立湊川高等学校
教諭 田口 順一

はじめに

定時制高校には、様々な環境で育ち、それぞれ状況も違う生徒たちが、昼間アルバイトなどをした後に登校し、毎日の学校生活を送っている。本校にも不登校経験のある生徒、怠学傾向のある生徒、他校を退学した生徒、単親家庭の生徒、成人生徒、高齢の年配者生徒など多種多様な生徒たちが通っている。私が過去に担任をしたクラスでは、生徒26名中22名が単親家庭もしくは親と生活をしていないということもあった。そういった中で、大人や教師に対して不信感をもつ生徒、どう接していいのかわからない生徒、距離感をつかめない生徒も多数いるのが現状である。

そのような生徒達を指導していくには、個に応じた指導が必要であり、そのためには一人ひとりに対する生徒理解が不可欠である。こちらの指導が生徒の心に届くようにするためには、生徒との信頼関係がなければならず、生徒理解と信頼関係の構築に私自身も多くの時間をかけてきた。

私は初任の全日制高校で4年間の勤務を終え、定時制の湊川高校に赴任してきた。本校では、8年間担任をし、その後進路指導部長、総務部長として生徒の自立・自律へ向けて取り組んできたが、私が生徒からの学びをもとに取り組んできた生徒指導・進路指導に関する内容をまとめてみたいと思う。

1 取り組みの内容・方法

(1) 学校生活全般を通して

生徒の自立・自律を促すということは、言い換えれば生徒指導・進路指導ともいえ、これは学校生活全般において生徒と接していくうえで根幹となる部分である。そのため、そのことを肝に銘じ学校生活の全ての場面を使って指導していく必要があると考える。

生徒たちは、どれだけ良い話をしようとも、他の人と同じ話をしようとも信頼のおける教員の話でないと聞かない、聞けないという場面を今までも何度も見てきた。特に大人や教員に対する不信感を持つ生徒はなおさらのことである。そういった生徒と信頼関係を築いていくということは、一朝一夕にはいかず、毎日コツコツとコミュニケーションを積み重ねていくしかない。授業時間はもちろんのこと、空き時間には廊下に立ち、挨拶から始まり他愛のない会話を重ねていくほかないのである。もちろん毎日生徒を観察し、コミュニケーションを重ねる中で、生徒が自分から話をしたいタイプなのか、自分からは話しかけられないが実は話を聞いてほしいタイプなのか、まわりに人がいると話しかけられたくないタイプなのかなど、生徒一人ひとりを理解することにもつ



ながら、そのことが信頼関係の構築にもつながっていくのである。

私自身も「生徒と関わる」ということを大切にしているが、生徒一人ひとりの個に応じた「関わり方」を知り、接していくこともまた重要なのである。こうした毎日の活動を通して生徒たちの自立・自律へむけて指導を行っていくわけであるが、最終的に自立・自律するためには進路の実現も欠かせない目標となってくる。

(2) 進路指導部長（平成 26 年度兵庫県進路指導研究会定通部会進路開拓幹事）として

入学当初、定時制高校に通う生徒の最大の目標は「高校を卒業する」ということである。そのため、卒業後の進路にまで考えが至らなかつたり、具体的に卒業後の姿を想像できる生徒が少ないのが現状である。ただ、そういった生徒たちとも深く関わっていくと実は夢や目標を持っており、高校生活を送っていく中でそれをより具体的なものとして取り組ませていく必要がある。進路指導担当としては、生徒たちが進路を実現するための手立てを考えなければならないのである。

私は、平成 26 年度に兵庫県進路指導研究会定通部会進路開拓幹事を務めることとなり、労働局やハローワークの関係者、企業関係者、そして他校の進路指導担当の先生方と接する機会を多く持つことができた。その中で、生徒が進路を実現し就職内定を勝ち取るために以下のような取り組みを行った。

(ア) 定通枠求人の開拓

労働局・ハローワークの協力を得て、企業説明会などで「定通枠求人」（県の定時制通信制高校全体を 1 つの高校のようなものとしてとらえ、指定校求人と同じ扱いで求人枠をいただくもの）の説明を行ったり、企業を訪問したりして組織的に働きかける。また、合わせて定時制高校生の長所や特長などをその際に伝え、アピールを行う。

(イ) 定通枠求人に対する選考会及び指導会

いただいた定通枠求人を各校に公開し、応募者を募り、選考会にて応募生徒の決定を行う。また、決定した生徒に対して面接及び一般常識の筆記試験対策の指導会を実施し、就職試験に備える。

(ウ) 兵庫労働局・職業安定所・県進指研定通部会交流会の実施

情報交換を主な目的とした交流会を実施し、高校側の状況や問題点を伝えるとともに行政・職安からの報告や意見を聞き、今後の進路指導の活動に活かす。

(3) 総務部長（平成 27～29 年度）として

生徒の自立・自律へ向けて、総務部長として以下のような様々な事業に関わり、生徒の自己有用感や自己肯定感を高めるような取り組みを行っている。

(ア) クリーン作戦の実施

年間 2 回、全校生が少人数のグループに分かれ、学校周辺の地域の清掃活動に取り組む。地域の自治会にも連絡をし、ゴミの分別をしながらゴミ拾いを行う。

(イ) 地域交流学習会の実施

毎年、夏休み中に地域の方に参加していただき、本校生徒とともに学ぶ学習会を実施している。特



地域交流学習会

に平成 29 年度からは、本校の歴史をふまえ「多文化共生・異文化理解」をテーマに講師を招き学習会を実施することとした。平成 29 年度は韓国の文化について学ぶこととし、講義「韓国の文化について」と調理実習「野菜たっぷり海鮮チヂミ」を行った。

(ウ) 防災に関わる取り組み

現状に合わせ、学校防災マニュアルを平成 29 年度に改訂した。また、防災訓練の際には避難場所を変更するとともに、Jアラートの対応について生徒に説明を行った。



防災訓練・Jアラート対応

2 取り組みの成果

(1) 学校生活全般を通して

毎日の活動の中で生徒とコミュニケーションを取ることによって、少しずつではあるが信頼関係の構築ができていくと考える。何より大事なのは、本当に伝えたいこと、伝えなければならないことを伝えたい時に伝えることができるように、他愛のない会話でもコツコツと積み重ねておくことである。今まで向き合ってきた生徒たちがそうであったが、劇的に関係が良くなるようなドラマみたいな話は現実にはほとんど起こらず、なにより日々の積み重ねが大事である。ただし、ある出来事によって一度に信頼を失ってしまうことはあるので、その点に関しても注意が必要である。

生徒とコミュニケーションを図りながら生徒理解をしていくわけであるが、合わせて生徒の方もこちらがどういった教員なのか、人間なのかを非常によく観察していることを忘れてはいけない。したがって、生徒たちの学年が上がるにつれてより良い関係を築くことができるわけだが、これを特定の生徒のみに行うのではなく、幅広く生徒全体に対して行っていくことでより成果が上がっていくことになる。こういった毎日の活動の先に、生徒の自立・自律へ向けた取り組みが成り立ち、生徒指導や進路指導の効果も上がっていくと考える。

(2) 進路指導部長（平成 26 年度兵庫県進路指導研究会定通部会進路開拓幹事）として

(ア) 平成 26 年度においては、企業の求人説明会への参加や企業訪問を組織的に行い、定通制高校生がすでに勤労経験があり、働くことの大変さを知り、社会人としてのマナーを身につけている点などをアピールすることによって定通枠の求人数が前年より 5 社 17 名増加し、過去 7 年間で最高になり、ピーク時の平成 19 年度レベルに回復することができた。もちろん景気の動向との関係もあるが、積極的に活動した結果、数値が向上した。

※参考 求人数：H19(28 社, 42 名)H20(25 社, 31 名)H21(13 社, 17 名)H22(3 社, 6 名)

H23(10 社, 13 名)H24(15 社, 18 名)H25(21 社, 22 名)H26(26 社, 39 名)

(イ) 定通枠求人を定通制県下全校に公開し、応募者を募り、各校の担当教員との面接などを行い応募生徒を決定した。また、応募することが決定した生徒に対し、模擬面接による面接指導と一般常識に関する筆記試験対策として模擬試験を実施し、定

通卒求人に関する就職試験の指導を行った。その結果、定通卒求人に関する内定率も過去6年間で最高となった。

※参考 内定率：H21(63.6%)H22(28.6%)H23(60.0%)H24(50.0%)H25(58.3%)**H26(77.8%)**

(ウ) 交流会を実施することで、労働局・職安より様々な情報を得ることができ、高校側からも各校の現状や問題点などを伝えることで意見交換ができ、お互いの要望なども伝えることで今後の進路指導に関する活動について有意義なものとなった。

(3) 総務部長（平成27～29年度）として

(ア) 地域の清掃活動（クリーン作戦）に取り組むことで地域貢献や美化意識の向上につながることはもちろんのこと、活動中に地域の方から声を掛けられたり、その中でも「ありがとう。」と言われたりすることによって生徒の自己有用感が高められていることが、生徒の事後アンケートからも読み取ることができる。

(イ) 地域交流学習会に参加した地域の方々と共に生徒が講義を受け、共に調理実習を行い、そして一緒に食事をするという活動を通して、普段接することのない方とコミュニケーションを取り、様々な話を聞くことで生徒の社会性の成長につながった。また、自分たちとは違う国や文化のことを学ぶことによって、人としての視野が広がり、そのことによって自分を認めることにもなり、自己肯定感の向上にもつながった。

(ウ) 防災面において、定時制高校の生徒には不登校経験のある生徒も多く、避難訓練をあまり経験していない生徒もいる。そういった生徒たちにとって、正しい知識を身につけることがいかに大事なことであるか理解させることが重要である。単に避難やJアラートの対応の仕方について学ぶだけでなく、正しい知識を身につけておくことの重要性やそれをどのように活用して行動する必要があるのかということも理解させなければならない。実際の訓練等を通して正しい知識を身につけることが社会を生き抜く力となり、ひいては自立・自律へとつながるということを意識させることができた。

3 課題及び今後の取組の方向

定時制高校に通う生徒たちが、将来社会に出て自立・自律し自分達の力で生き抜いていくために身につけなければならないことは多い。しかし、生徒たちの多くはアルバイトなどをしており、学校だけでなく様々な場面で社会性などを身につけ、成長していく機会を多く持っている。その中で我々教員は、学校生活においてあらゆる活動を通して生徒たちを指導し、生きる力を身につけさせ自立・自律できるよう導かなければならない。

様々な背景を持つ生徒たちと積極的に関わることでそれぞれの個に応じた生徒理解をし、信頼関係を築き、生徒がこちらの話に耳を傾ける状況を何よりも作っていかなければならない。そういった土台の上に、生徒指導や進路指導を生徒一人ひとりに応じて行っていく、高校卒業、進路実現をできるようサポートしていく必要がある。個性豊かな生徒たちに対して、これが正解だというような指導はなかなか見つからないものであるが、それでも毎日の学校生活の中で時間を大切に、コツコツと今後も取り組んでいきたいと思う。それが、生徒が社会に出て、生き抜いていく力を身につけていくことにつながると信じて。